



(1) 根津嘉一郎 (初代)

明治期から昭和初期にかけて政財界で活躍。東武鉄道や南海電気鉄道などの鉄道敷設や再建事業に携わり、「鉄道王」と呼ばれた。一方で、渋沢栄一率いる渡米実業団の一員としてアメリカを視察。「国家の繁栄は育英の道に淵源する」という信念のもと、武蔵高等学校や根津化学研究所の創立など、教育・文化事業にも情熱を傾けた。

(2) 建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
 2. 世界に雄飛するにたえる人物
 3. 自ら調べ自ら考える力ある人物
- 武蔵大学のルーツである旧制武蔵高等学校は「人間形成を根幹に、明日の新しい日本を担う、優れた人材を育てる」という理想のもと創立された。



(3) ラーニングcommons (LC)

学生が自由に学べる自主学習の施設で、時間制の空きコマをキャンパス内で有意義に過ごすことができる。グループワークができるフリーデスクや1人で集中して学習できるソロワークブースなど、目的に合わせた幅広い利用が可能。ディスカッションやプレゼンテーションの場としても活用できる。学生の利便性を考え、授業のない日曜日や祝日も開室している。



【右】外国籍の教員が多数在籍するGS専攻
【左】キャリア支援センターでの全局面談(上) / 各学部で学びの成果を発表する場が用意されている(下)

る人材に成長していくことが期待されます」(高橋学長)

データサイエンスを推進 横断的・学際的な学びを提供

武蔵大学では、グローバル教育だけでなく、データサイエンスなど文理融合教育の充実化も図っています。2017年にスタートした社会学部のグローバル・データサイエンスコース(GDS)では、新時代の世界共通語である「データ」と「英語」のスキルを習得し、ビッグデータの分析などを通して社会に貢献できる人材を養成します。

「GDSが重視しているのは、社会的な視点で現代を読み解く力です。自ら見いだした社会課題に対して仮説を立て、分析、検証するために必要な数学的・統計学的手法を授けます。今後は学部学科を問わず、基礎から発展・応用まで、データサイエンス教育を重層的に展開させていきたいと考えています」(高橋学長)

2022年には、文理融合教育の拠点として「リベラルアーツ&サイ

エンス教育センター」を開設しました。自然科学や身体運動科学の分野など、幅広い教養を身につけるための学びを提供しています。

「センター設立の目的は、異なる専門性を持つ学生が学部を越えて学び合うことで、学習目標の達成や課題解決につながる機会を創出することです。所属する学部で培った専門知を持ち寄ることによって、横断的・学際的な学びの環境づくりを進めています」(高橋学長)

少人数ならではの支援体制 何よりも大切なのは「教育力」

多様化する学生の学びに対応するため、キャンパス整備も進めています。2022年に新設された11号館には、ラーニングcommonsのやグループスタディールームが設けられ、日曜日も施設を解放しています。また、2025年春頃には建築家の隈研吾氏による新2号館がオープンする予定です。

「学生にはキャンパス内で過ごす時間を長くしてほしいですし、その

ためには快適に過ごせる場所が不可欠です。学内で過ごす時間が長くなることで、自ずと学習時間も長くなっていくのではないかと期待しています」(高橋学長)

また、キャリア支援においても学生一人ひとりに向き合うきめ細かなサポート体制を整えています。キャリアカウンセラーなどの専門資格を持つ職員が10名以上常駐して個別相談に応じるほか、就職活動が本格化する前に3年生全員と面談を実施。学生が主体的に進路決定できるよう指導しています。

「熱心な学生は数十回も個別面談に訪れるようで、それだけ徹底的にサポートができる体制が整っているということです。海外企業や外資系企業などへの就職希望者の支援整備にも取り組んでいます。

本学が何よりも大切にしているのは『教育力』です。ゼミを筆頭に学生の学習意欲を刺激する多彩な学びの場を提供していきます。また、11号館や新2号館といった空間づくりから、リベラルアーツ&サイエンス教育センターが中心となって進める横断的・学際的な学習環境づくり、そしてグローバル教育での多様なプログラムを推進してきた意義やその効果を最大限可視化して学生に伝えていきたいと考えています。今後も学生の声に耳を傾けながら、学生本位の大学づくりに邁進していきます」(高橋学長)



たかはしのりゆき
高橋徳行学長
1980年慶應義塾大学経済学部卒業。98年パソン大学経営学修士課程修了(MBA)。専門分野はアントレプレナーシップ。武蔵大学経済学部教授、経済学部長、副学長を経て2022年より現職。

武蔵大学は、近代日本を代表する実業家・政治家、根津嘉一郎(初代)⁽¹⁾が1922(大正11)年に開校した、わが国初の私立七年制高等学校である旧制武蔵高等学校をルーツとしています。「ゼミの武蔵」として知られ、開学時から徹底している少人数教育は、建学の理想に掲げられた「自ら調べ自ら考える力ある人物」を育む学びの基盤として受け継がれています。

近年は、次代を見据えたグローバル教育やリベラルアーツ&サイエンス教育などを推進。学園100周年を迎えた2022年4月には、国際教養学部を開設しました。高い専門性と学際的な知見、行動力を磨き、世界を生き抜く力を備えたグローバルリーダーの養成をめざします。

武蔵大学

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1 アドミッションセンター TEL 03-5984-3715 <https://www.musashi.ac.jp/>

世界を生き抜く力を磨く「ゼミの武蔵」 多彩な専門知と実践力を兼ね備えた グローバルリーダーを養成

自主性や多様な視点を育む 少人数制ゼミ

大学通信が調査した『進路指導教諭が勧める大学ランキング』(2023年度)において、「小規模だが評価できる大学」で7年連続「面倒見が良い大学」で14年連続の首都圏1位に輝いた武蔵大学。このほか「教育力が高い大学」(全国私大5位)、「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」(全国私大3位)など複数の項目で高い評価を得ています。

武蔵大学の最大の特長は、徹底した少人数教育にあります。旧制高等学校時代から受け継ぐ「建学の三理想」を体現する場として、「ゼミ(ゼミナール)」を教育の中心に据えてきました。

学生が主体的、能動的に関わり、高い学習効果が得られるアクティブ・ラーニング。その代表的なスタイルが少人数制のゼミです。1ゼミあたりの学生数は約13名。少人数なので教員や他の学生との距離が近く、議論も活発になります。目標に向かって切磋琢磨し合える環境が学生

の意識を高め、専門の学習を深めるだけでなく、自主性や課題解決力、コミュニケーション能力などを育みます。

「同じ仲間と同じテーマを探究するゼミがあることで、学生間に強いつながりも生まれやすくなり、連帯感や一体感のもとで協調性が養われます。また、ディスカッションやブレゼンなどを通して対話力や傾聴力も磨かれます。一方、教員はゼミで指導する中で学生の悩みなどを深く理解し、他の授業や指導に生かすことができています」と、高橋徳行学長は語ります。

世界水準の学びを提供する 国際教養学部

開設から2年目を迎えた国際教養学部は1学科2専攻。経済経営学(EEM)専攻は、武蔵大学の学位と並行してロンドン大学の経済経営学士号あるいは経済学士号の取得をめざすパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)を軸に、少人数での質の高い授業を展開。日本にいながら世界水準の経済・経営学の知見を身につけ、高い英語力と教養、そして統計分析の手法を備えたグローバルに活躍できる人材を養成します。

「EM専攻の学生は、入試段階で学内併願が比較的少なく、合格者の入学率が高い傾向があります。志望動機の強さ、本気度の高さが感じられ、語学研修を経た1年生の8月末段階でIELTSSコア5.5以



PDP授業風景